

巻頭言

高千穂大学学長 寺内 一

TEAP は以下のように定義されている。

TEAP とは、Test of English for Academic Purposes の略語で、上智大学と公益財団法人日本英語検定協会が共同で開発した、大学で学習・研究する際に必要とされるアカデミックな場面での英語運用力（英語で資料や文献を読む、英語で講義を受ける、英語で意見を述べる、英語で文章を書くなど）をより正確に測定するテストです。（<http://www.eiken.or.jp>）

すなわち、TEAP の本来の用途は、高大接続を目的とした「高校英語教育の効果測定」、「大学入学者選抜における英語 4 技能測定」、「大学教育における到達度測定」、「大学院進学に向けた英語力測定」まで及ぶ。しかしながら、残念ながら、現状では、「大学入学者選抜における英語 4 技能測定」に限定されていると言わざるを得ない。前述の定義にあるように、TEAP はそれ以外の用途はもちろんのこと、さらには、EAP（English for Academic Purposes）教員養成など他にも活用できる可能性がある。

本研究はその TEAP を従来の大学入学者選抜以外に、大学の教育段階における英語力測定試験としての有用性の検証を行うことを目的として始まった。なお、今回は、オンラインで受験できる TEAP オンラインテストも利用して研究を行うことを推奨したが、必ずしも TEAP オンラインテストを実施することは条件とはせず、①EAP 教育を担う教員に求められる能力の検証と指導力養成；②EAP 能力育成に向けた大学生向け教材の開発；③EAP カリキュラムの質保証基準の設定を研究の最終目的とした。

当初の予定では、本研究の調査期間（2022年10月1日～2024年3月31日）を3つのフェーズに分けて、第1フェーズ（2022年10月1日～2023年3月31日）をプレ研究期間とし、各研究分担者が個人的に TEAP オンラインテストを利用して EAP 研究を実施し、後に予定されていた第2フェーズ（2023年4月1日～2023年12月31日）（本研究）と第3フェーズ（2024年1月1日～2024年3月31日）（報告書作成）の期間に備えることとしていた。しかしながら、諸事情により、第1フェーズ（プレ研究）で一度ストップし、第2フェーズの実施は無期延期となった。

そこで、本報告書は第1フェーズ プレ研究（2022年10月1日～2023年3月31日）で実施された研究結果だけをまとめたものとなった。なお、研究組織そ含めて研究テーマも、第3フェーズまでを視野に入れて作られたものなので、研究当初に計画していた研究すべてがこの第1フェーズで実施されたわけではなく、研究テーマを変更し、実施された上で、本報告書に記載されているものあることも付記しておきたい。

最後になるが、半年間という短い期間であったが、本研究組織の各メンバーを代表して、本研究の場を提供していただいた公益財団法人日本英語検定協会に感謝の念を申し上げるとともに、本研究が TEAP のさらなる発展のみならず、国内外の応用言語学研究の一与になることを心より期待したい。

研究組織

研究代表者	寺内 一 (JACET 特別顧問・高千穂大学学長)
プロジェクトリーダー	飯島優雅 (独協大学教授)
研究分担者 (50 音順)	金丸敏幸 (京都大学准教授)
	河野 円 (明治大学教授)
	佐藤雄大 (名古屋外国語大学教授)
	田地野 彰 (名古屋外国語大学教授)
	マスワナ紗矢子 (東京理科大学准教授)
	山田 浩 (高千穂大学准教授)
	渡辺敦子 (文教大学教授)
	渡 寛法 (日本大学准教授)